

## 社会学科 卒業論文・卒業研究ガイドンス

### 1. 卒業論文・卒業研究の目的と位置づけ（『履修要項』89頁）

- 1) 社会学科を卒業するには、4年次において、「卒業論文」（「卒業論文演習1・2」と「卒業論文」の合計12単位）、「卒業研究」（「卒業研究1・2」の合計4単位）のどちらかを選択し、履修・単位修得しなければならない
- 2) 「卒業論文」：「専門演習2」と「卒業論文演習1・2」を履修することによって、自分の研究テーマを決めて、深く研究を進めて論文を作成することを目標としており、社会学科では学生に「卒業論文」による卒業を推奨している。
- 3) 「卒業研究」：演習に所属せず、社会学部3学科がカバーする領域を広く修得して、社会学部を卒業し社会に出るにふさわしい見識を獲得することを目指す教育プログラムであり、春学期2課題、秋学期2課題のうち、春学期、秋学期にそれぞれ社会学科課題を1つ以上選択するという条件のもとでレポートを作成し、4課題それぞれについての口頭試問に合格することで単位が修得される。

### 2. 卒業論文・卒業研究の選択（『履修要項』89頁）

- 1) 3年次に「専門演習2」を履修した学生：4年次には原則として「卒業論文演習1・2」「卒業論文」を履修する。ただし、以下の場合、「卒業研究」の選択となる。
  - ① 「卒業研究」へ選択を変更する場合は、「専門演習2」指導教員の下承を得て変更できる。  
教務事務センター履修・成績窓口で配布する指定の届出用紙に「専門演習2指導教員のサインを得て、下記の提出期限までに提出すること。後述の「研究希望課題申請書」を合わせて提出すること。  
提出期限：2018年3月15日（月）17:00  
提出場所：教務事務センター履修・成績窓口
  - ② 3年次までに「専門演習1」「専門演習2」のどちらか一方でも履修したが不合格となった学生は、4年次に「卒業論文」を選択することはできず、「卒業研究」を履修することになる。  
ただし、4年次に「専門演習1」「専門演習2」のうち不足している科目を再履修し、次年度に「卒業論文」を選択することはできる。
- 2) 3年次に「専門演習2」を履修しなかった学生：4年次に「卒業研究」を履修することになる。

### 3. 卒業論文（『履修要項』89頁～）

- 1) **指導教員**：「卒業論文演習1・2」の指導教員は、原則として「専門演習2」の指導教員と同一教員とする。
- 2) **履修規定**
  - (1) 在学7学期以降の学生のみ「卒業論文演習1」の履修が認められる。
  - (2) 「卒業論文演習1・2」「卒業論文」を履修するためには、「専門演習1」「専門演習2」の単位を履修していなければならない。
  - (3) 「卒業論文演習2」を履修するためには、「卒業論文演習1」の単位を履修していなければならない。

- (4) (2)(3)について、3年次在学留学者に対しては、特別措置を講じることがある。これについては、指導教員に事前に相談すること。
- (5) 「卒業論文演習2」を履修中の者でなければ、「卒業論文」を提出することはできない。
- (6) 「卒業論文演習2」の単位は、「卒業論文」を提出し、「卒業論文」の単位を修得した者のみ与えられる。
- (7) 春学期開講の「卒業論文演習1」を履修したが不合格（単位未修得）、または履修していない場合には、申請することにより秋学期に「卒業論文演習1」を開講することがある。この場合、「卒業論文演習2」を次年度の春学期に履修し、「卒業論文」は7月に提出することになる。
- (8) 秋学期開講の「卒業論文演習2」を履修したが、不合格（単位未修得）、または履修していない場合には、申請することにより次年度春学期に「卒業論文演習2」を開講することがある。この場合、「卒業論文」は7月に提出することになる。
- (9) (7)(8)については、指導教員のサインおよび捺印を得た上で、申請期限までに「履修希望届」（教務事務センター履修・成績窓口で配布）を教務事務センター履修・成績窓口に提出すること。手続きの詳細は、2018年度『履修要項』にて指示する。

### 3) 登録方法

- (1) 「卒業論文演習1・2」、「卒業論文」は大学が履修登録する。ただし、履修登録状況画面で正しく登録されていることを確認すること。
- (2) 「卒業論文」の登録は、「卒業論文演習2」と同時に履修登録となる。
- (3) 当該年度に限り「卒業論文演習1」の合格者は、「卒業論文演習2」の登録を取り消すことはできない。

### 4) 卒業論文作成スケジュール

2017年11月15日（水） 卒業論文ガイダンス「**卒業論文計画書**」配布（本日）

2018年1月11日（木）～16日（火） 「**卒業論文計画書**」提出

\* 提出場所: 教務事務センター レポートボックス

〃 7月上旬 卒業論文**題目届**提出

〃 10月下旬 卒業論文**題目変更届**提出

〃 12月中旬 卒業論文提出(最終日は**15時**まで)

2019年1月下旬～2月上旬 卒業論文口頭試問

### 5) 卒業論文の提出

期 限: 2018年12月●日(●)～●日(●) ※提出期限は2018年度の『履修要項』にて指示。

提出先: 2018年11月下旬に社会学部掲示板に掲示する。

提出届: 提出にあたっては「社会学部卒業論文提出届」を添えること。「社会学部卒業論文提出届」は教務事務センター・試験窓口で交付する。

形 式: **32,000字以上**。A4判を原則とし、判型は指導教員の指示に従うこと。

製 本: 社会学科所定の方法による簡易製本(正副ともに)をすること。簡易製本カバーをセントポールズプラザで各自が購入し、製本作業はセントポールズプラザもしくは指導教員の部屋に備え付けの製本機を利用して行うこと。

部 数: **正副2部**。提出部数に不足がある場合は受理されない。

## 6) 卒業論文の審査

- ① 卒業論文の査読は指導教員を含む2名の教員が担当する。
- ② 卒業論文の口頭試問は1月下旬～2月上旬に実施する。
- ③ 卒業論文の審査は、査読と口頭試問の結果に基づいておこなう。

【注1】不十分な計画書は再提出となります。提出が遅れると卒業論文の作成指導に支障が生じます。

【注2】2018年度『履修要項』の内容を確認し、本資料からの変更があった場合は、『履修要項』に従うこと。

## 4. 卒業研究【2012～2015年度入学者】（『履修要項』92頁～）

### 1) 研究課題と指導教員

- (1) 卒業研究は、各学科から4つずつ提示された課題（計12課題）のうち、「卒業研究1」は春学期に2つ、「卒業研究2」は秋学期に他の2つの課題について研究を進め、レポートの作成などの課題を達成して合格することで2単位ずつを修得する。
- (2) 課題の選択において、自学科からの課題が「卒業研究1」「卒業研究2」それぞれに1課題以上含まれていなければならない。
- (3) 卒業研究を選択する者は、3年次の1月下旬～3月中旬に、「卒業研究1」で研究を希望する2課題、「卒業研究2」で研究を希望する2課題を記載した申請書を提出する。この希望をもとに、各学科・学部がそれぞれの学生について「卒業研究1」「卒業研究2」の研究課題を確定し、履修登録を行う。
- (4) 課題レポートの作成を指導する教員は、各学科・学部が決定する。

### 2) 履修規定

- (1) 在学7学期以降の学生のみ「卒業研究1・2」の履修が認められる。
- (2) 「卒業研究1・2」の同時履修はできない。ただし、3年次在学留学生については、特例措置を講じることがある。これについては、アカデミック・アドバイザーに事前に相談すること。
- (3) 春学期開講の「卒業研究1」が不合格（単位未修得）または春学期に「卒業研究1」を履修していない場合には、秋学期に「卒業研究2」の単位を修得し、次年度春学期に「卒業研究1」を履修することとなる。
- (4) 春学期開講の「卒業研究1」の単位は修得したが、秋学期開講の「卒業研究2」が不合格（単位未修得）の場合、または「卒業研究2」を履修していない場合には、申請することにより次年度春学期に「卒業研究2」を開講することがある。
- (5) 秋学期開講の「卒業研究2」の単位は修得したが、春学期開講の「卒業研究1」が不合格（単位未修得）の場合、または「卒業研究1」を履修していない場合には、申請することにより秋学期に「卒業研究1」を開講することがある。
- (6) (4)(5)については、指導教員のサインおよび捺印を得た上で、申請期限までに「履修希望届」（教務事務センター履修・成績窓口で配布）を教務事務センター履修・成績窓口へ提出すること。手続きの詳細は、2017年度『履修要項』にて指示する。

### 3) 登録方法

- (1) 「卒業研究1・2」は大学が履修登録するので、科目コード登録は行わないこと。ただし、登録科目確認表で間違いなく登録されていることを確認すること。

(2) 履修を許可された者は、その科目を取り消すことはできない。

#### 4) 卒業研究スケジュール

2017年11月15日 卒業研究ガイダンス 「**研究希望課題申請書**」配布（本日）

2018年1月23日（火）～3月15日（木）17:00まで

「**研究希望課題申請書**」を教務事務センター レポートボックスに提出

\* 提出された希望は原則として変更できない。

2018年4月初旬 4年次ガイダンスにて「卒業研究1」「卒業研究2」登録予定の確認、研究希望課題の申請（1月に「**研究希望課題申請書**」が未提出の者のみ）。

※ 申請書未提出の者には、学部が課題を指定する。

// 4月上旬 学生ごとの研究課題発表（社会学部掲示板に掲示）

// 5月下旬 「卒業研究1」課題レポート中間提出

// 6月下旬 「卒業研究1」課題レポート提出

// 7月上旬～中旬 「卒業研究1」口頭試問

// 11月中旬 「卒業研究2」課題レポート中間提出

2019年1月上旬 「卒業研究2」課題レポート提出

// 1月中旬～試験期間終了日 「卒業研究2」口頭試問

#### 5) 課題レポートの提出期間・場所

2018年度『履修要項』にて指示する。

#### 6) 課題レポートの形式

課題レポートは 1課題につき 4000字以上を量的な最低水準とする。

#### 7) 授業

卒業研究1・卒業研究2ともに初回の授業（水曜・6限予定）は実施する。それ以降は、申し出により個別指導をおこなう。

【注】2018年度『履修要項』の内容を確認し、本資料からの変更があった場合は、『履修要項』に従うこと。

以上



\* 提出日時:2018年1月11日(木)~16日(火) 9:00~17:00

厳 守

\* 提出場所:教務事務センター レポートボックス

\* 不十分な計画書は再提出となります。受理が遅れると卒業論文の作成指導に支障が生じます。

\* 他学科のゼミを履修している場合は、そのゼミの教員が所属している学科のレポートボックスに提出してください。

	著 者	書 名	出 版 社
テーマまたは 関心領域に関 連して既に読 み終えた文献 のリスト			
これから読も うとする文献 のリスト			
備 考			

※「卒業論文作成に関する計画書」で収集した個人情報、社会学科として各学生の研究テーマを把握して学科としての指導体制の運営のために利用するとともに、教員による各学生の卒業論文指導の資料とする。

# 2018 年度「卒業研究課題」

## 春学期（卒業研究 1）=====

### ■社会学科の課題■

#### 社 1

- 1 自分で自由にテーマを設定し、仮説を複数作って書く。
- 2 仮説に従って分析を行う。ただし、仮説は必ず因果関係を含む文にすること。原因と結果の関連を明確に書けばよい。必修科目での仮説構築や因果関係についての内容を復習するとよい。
- 3 村瀬研究室ホームページにある SPSS 形式等の社会調査データファイルを用い、男女別、年齢別、学歴別のクロス集計を行う。それ以外の変数も必要に応じて用い、仮説に基づき分析する。データファイルは自分で検索して入手する等、他のデータファイルを用いてもよい。データファイル入手申請には時間がかかるので注意する。
- 4 ただし学歴と年齢については、自分で SPSS 等の分析ソフトを操作し、シNTAX を用いて適切にカテゴリー合併を行うこと。また、自分がどのようにカテゴリー合併を行ったかレポート内で説明すること。必修科目で学んだ内容をやればよい。年齢については、2 カテゴリーのもの、3 カテゴリー以上の変数を、自分で作った上で、表を作成すること。
- 5 村瀬研究室ホームページにあるクロス集計の資料を参考に、適切な形式のクロス集計表を作り、表内には分析目的に応じて縦または横の%を書くこと。SPSS 出力の表をそのまま使ってはいけない。自分で適切な形式の表を作る。表内には人数は書かず%のみを書くこと。
- 6 分析結果をどう解釈するか、各表について自分の意見を数行でよいので自由に書く。また、結論として自分が何を主張するか、レポートの最後に明確に書くこと。分析結果と関連させつつ、最後に自分の主張や意見を書けばよい。
- 7 レポート冒頭部では、自分のテーマと仮説に関する先行研究について、3 つ以上の文献の要約を書くこと。関連する学術論文や学術書を自分で検索し、代表的なものについて書くこと。

#### 社 2

以下の 4 つの課題に取り組み、4,000 字以上のレポートとしてまとめなさい。

社会学・社会科学の辞事典や代表的な先行研究を調べて、(1)「貧困 (poverty)」 「社

会的排除 (social exclusion)」のそれぞれの概念が社会学・社会科学のなかでどのように定義されてきたのか、(2) 両者の共通点と相違点は何かについて、1つ以上の辞事典と3つ以上の先行研究をもとに説明しなさい(参照した出典の書誌情報を必ず示すこと)。さらに、(3) 日本社会に見られる社会的排除の問題を一つ取り上げ(新聞記事や統計数値などの根拠となるデータを用いて問題の概要を説明すること。また、その出典も必ず示すこと)、(4) その問題を解決するためにはどのような政策が有効と考えられるかについて、日本以外の国の政策を参考にしながら論じなさい(どの国・地域でいつ頃導入された政策なのか、どのような内容を持つのかについても説明をすること)。文献リストも必ず含めること(著者名順に並べること)

## ■現代文化学科の課題■

**現1:** 現代の都市または地域社会に生じている問題を1つ取り上げて、具体的な統計データ、行政刊行物、各種文献などの資料を用いて具体的に説明しなさい。そのうえで、取り上げた問題について、資料とは別に学術的文献3点以上を参照して、社会学的知見に基づいて論じなさい。

**現2:** 日本における環境問題の論点の変化を歴史的に論じ、そのうえで日本の国際社会への貢献可能性について、①何を、②どのように貢献しうるか考察しなさい。その際、以下の条件を満たすこと。

- (1) 人権、生態系、社会運動、地域再生のうち、いずれかに言及すること。
- (2) 文献を5冊以上読んで、適切に用いること。
- (3) 新聞・雑誌記事などの参考資料を2点以上用いること。
- (4) 引用箇所が明示され、参考文献が適切に表示されていること。

## ■メディア社会学の課題■

**メ1:** 「オンラインジャーナリズムの存在／不在」

ジャーナリズムの主要な役割はラスウェルのいう「環境の監視」、すなわち、社会・世界で日々起きていることを当該社会の構成員に第一報ニュースとして伝えることであり、その役割は主に新聞が担ってきた。インターネット全盛の時代だが、日本ではネット上に独自の(新聞社などのサイトや新聞社・通信社が記事を提供しているポータルサイトなどは除く)オンラインジャーナリズムがどの程度、存在するか。ジャーナリズム、インターネットに関する学術書を3点以上読んだうえで、日本のオンラインジャーナリズムの現状をアメリカやヨーロッパ各国と比較しつつ、実際にインターネット上のニュースを分析して、質と量の両面から実証的に検証しなさい。



## メ2：「インターネット上のメディアイベント」

テレビが主導して集団的記憶をつくる「メディアイベント」的なるものは、インターネット上に存在するか。存在するとしたら、テレビが媒介するものと比べ、どのような特性を備えているか、ブーアスティンの疑似イベント論、ダヤーンとカツツのメディアイベント論を読み込み、それらを十分に踏まえ、さらにもう1点以上の学術書を読んだうえで、ソーシャルメディアなどの投稿を分析して実証的なリサーチを行い、論じなさい。

### 参考文献

ダニエル・ブーアスティン著、星野郁美・後藤和彦訳『幻影の時代』東京創元社、1964年

ダニエル・ダヤーン、エリユ・カツツ著、浅見克彦訳『メディア・イベント 歴史をつくるメディア・セレモニー』青弓社、1996年

## 秋学期（卒業研究2）

### ■社会学科の課題■

#### 社3

あなたの関心ある都市問題（例えば、都心衰退問題、住宅問題、待機児童問題など）を一つ取り上げ、以下の課題を4000字以上のレポートとしてまとめなさい。現地での一つ以上の聞き取り調査を行うことを必須とする。

- ① 都市問題が発生した社会的背景とこれまでになされてきた国レベルの社会政策などから、問題の概略をまとめる。ただし3冊以上の文献を利用すること。
- ② その問題に対して自治体レベルでどのような政策がとられているか、自分で適当な自治体を選び、その自治体から資料収集し明らかにする（資料出典を明記）。
- ③ あなたの選んだ自治体において、その問題に取り組んでいる市民活動団体（NPO、ボランティア団体等）を取り上げ、聞き取り調査を行い、どのような方法で問題解決を目指し、そこで直面している問題等は何か、分析する。

#### 社4

社会学者の著作・論文（必ず1本以上）、その社会学者（の著作・論文）について書かれた著作・論文（0本でも可）をあわせて最低3本読んだ上で、自分でテーマを設定し、それについて自由に論じなさい。

\*この課題には三段階の作業が含まれます。文献の選択、テーマの設定、論文の執筆。しかし作業がこの時系列に沿って進むとは限りません。もっとも重要なことは「テーマの設定」、つまり何を「問題」として立て、それを「どのように」論じるか、というこ

とですが、それは初めからどこかにあるものではなく、自分で発見（＝創造）するものです。文献を読みながらしだいに明らかになる場合もあれば、論じていくうちに変わっていくこともあります。自分の中に「問題」が発見（＝創造）されない限り、この課題にこたえることはできません。そのことをよく理解したうえで、研究に取り組んでください。

## ■現代文化学科の課題■

**現3**：日本の「移民政策」に関する最近の新聞記事（2点以上）を検索して、それぞれの内容をまとめなさい（新聞名、記事の日付とタイトルを明記すること）。次に記事の事例と関連する文献（専門書や論文等）を収集して、日本の移民受け入れ賛成という論調と移民受け入れ反対の論調、それぞれの論旨をまとめたうえで、その議論と関連させて自分の立場について述べなさい。

**現4**：現代の「価値とライフスタイル」の全体的動向について論じなさい。ただし、次の条件を満たすこと。

- (1) 現状だけでなく、これまでの歴史的変化についても論じること。
- (2) 根拠として、消費、アート、ポピュラーカルチャー、宗教のいずれかに関わる具体的現象についてのデータを2つ以上示すこと。（量的データでも質的データでもよい。）
- (3) 関連する学術的文献を5冊以上読み、そこから適宜引用するとともに、引用文献を示すこと。
- (4) 引用文は全体の字数の半分以下とすること。
- (5) タイトルは、レポートの結論を適切に表現したものとすること。

## ■メディア社会学科の課題■

**メ3**：「政治とインターネット・メディアの関わりについて」

1 政治的に明白に右派（保守派、あるいはいわゆる「ネトウヨ」含む）、左派（革新派）の立場をそれぞれとっていると思われるウェブサイト（ツイートボタンが置いてあるサイト）をそれぞれ3つ以上探しなさい。

2 以下のリツイートの拡散経路を可視化してくれる Web ツール「無料 RT 分析ツール」（過去1週間のツイートを最大500件まで取得し、分析可能、<http://rt.nakanohito.jp>）をパソコン上で用いて、そのサイトをリツイートしたソーシャル・グラフを表示させ、どのような Twitter ユーザーによってリツイートが拡散されているか調べなさい。画面上に表示されている、リツイートされた Twitter アカウントのアイコンをクリックする

と、そのアカウントに飛ぶことができます。そこから、拡散主を中心にできるだけ、それらのアカウントがどのような立場に立っている人なのかをできる限り調べ、リツイートの拡散経路を可視化したソーシャル・グラフ全体の傾向を明らかにしてください。

3 また、その際必ず、重要と思われる Twitter ユーザーのアカウントのスクリーンショット画像、また、ソーシャル・グラフのスクリーンショット画像を Word に貼り付けること。

4 上記 2 を明らかにするにあたって、本あるいは論文を 3 つ以上用いてその論拠を補強しなさい。

#### メ 4 : 「メディアと『忘れられる権利』について」

2014 年 5 月、EU 司法裁判所は、Google に対し、ユーザー個人の「忘れられる権利」を認める判決を下した。この訴訟の背景には、アメリカの個人のプライバシー保護よりも個人情報の利活用を重視する立場と EU の個人のプライバシー保護重視の立場の違いと対立があるものと考えられる。こうした状況を前に、日本でも個人情報をめぐる議論が活発化している。

1 そこでまず、「忘れられる権利」について適切に説明しなさい。また、EU が命じたことへの Google の対応について、Google 自身が「透明性レポート 欧州のプライバシー法に基づく検索結果の削除」

([https://transparencyreport.google.com/eu-privacy/overview?hl=ja&privacy\\_requests=year:2017&lu=privacy\\_requests](https://transparencyreport.google.com/eu-privacy/overview?hl=ja&privacy_requests=year:2017&lu=privacy_requests)) というサイトで情報公開を行っている。これを参照し、「忘れられる権利」を「知る権利」、「表現の自由」と関連づけ、本または論文を 3 つ以上参考にしながらあなた自身の主張とその論拠を明らかにしなさい。

2 アメリカの立場と EU の立場について、本または論文を三つ以上参考にしながら説明しなさい。また、日本における政府の検討、有識者の議論、それに関する報道などをていねいに調べて、日本がアメリカと EU 両者の理念の間でどのような立場に現在あるのかをできるだけくわしく説明し、あなた自身の主張とその論拠を明らかにしなさい。

2012 年度以降入学者用

# 2018 年度「卒業研究」(3 学科共通) 研究希望課題申請書

2017/11/15 社会学部

※「履修要項」92～93 頁を熟読の上、下記の空欄に選択する課題の課題番号(社1、現2、メ3など)をそれぞれ記入しなさい。

## 春学期 (卒業研究 1)

課題リスト(2012 年度以降入学者用)をよく読み、春学期の6 課題(社1・社2・現1・現2・メ1・メ2)から2 つを選択し課題番号を記入すること。ただし、自学科からの課題を1 課題以上含めること。

1 課題目(自学科から選択).....  (課題番号)

2 課題目(自学科・他学科から選択).....  (課題番号)

## 秋学期 (卒業研究 2)

課題リスト(2012 年度以降入学者用)をよく読み、秋学期の6 課題(社3・社4・現3・現4・メ3・メ4)から2 つを選択し課題番号を記入すること。ただし、自学科からの課題を1 課題以上含めること。

1 課題目(自学科から選択).....  (課題番号)

2 課題目(自学科・他学科から選択).....  (課題番号)

提出期限: 2018 年 1 月 23 日(火)～3 月 15 日(木) 17:00 まで

提出先: 教務事務センター・レポートボックス

記入漏れや誤記入があった場合、学部から SPIRIT Mail(学生番号@rikkyo.ac.jp)に連絡することがある。自分の SPIRIT Mail をよく確認すること。

学科	氏名	学生番号